

公益社団法人私立大学情報教育協会
令和2年度 第2回産学連携推進プロジェクト委員会議事概要

I. 日 時：令和2年10月23（金）16：00～18：00

II. 場 所：私立大学情報教育協会（ZOOMによるテレビ会議開催）

III. 参加者：向殿委員長、大原副委員長、辻村委員、井上委員、青木委員、歌代委員、
田辺委員、齋藤アドバイザー、吉永アドバイザー、渡部アドバイザー、河野アドバイザー、
青木アドバイザー、井端事務局長、森下

IV. 資料

1. 令和2年度「学生による社会スタディ」開催要項（案）
2. 令和2年度「産学連携人材ニーズ交流会」開催方針（メモ）
3. アフターコロナ時代の工学教育を考える（日本大学 青木委員）
4. 第1回産学連携推進プロジェクト委員会議事概要

V. 検討内容

1. 令和2年度「学生による社会スタディ」開催要項（案）について

第1回委員会の検討を踏まえて、令和2年度「学生による社会スタディ」の開催要項について以下のように検討した。

① 開催方式

感染防止の観点から本年度はオンラインによる開催とする。

② オンライン環境

私学会館を配信会場にして「ZOOM」によるオンライン開催とする。

③ 募集対象

国・公・私立大学の1年生・2年生で、オンラインによるテレビ会議（Zoom使用）に参加可能な学生とする。

※ Zoomにネット接続し、Webカメラ、マイク等を用いて参加できることが条件とし、必要な環境、パソコン、インターネット環境、技術サポートのレベルなどを明示して募集する。

※ 遠隔授業の環境構築が進んでいるので、接続テストや技術サポートなどは行わない。

④ 募集形態

- ・グループ討議を含む全てのプログラムに参加する「全プログラム参加者」 100名
- ・グループ討議に参加せず、情報提供と質疑応答・意見交換に限定して参加する学生200名

※ 申込が定員を超えた場合、一部の大学に参加者が偏らないよう抽選等の方法で参加者を決定する。

④ グループ討議の運営について

- ・グループ討議については、ネット上で最大100名を6名1グループ、計16グループ程度でウェブレイクアウトルームを用いて行う。
- ・昨年度のグループ討議でも委員が中に入ってファシリテートする必要はなく、参加者が自主的にグループ討議を進め、良い発表ができていることから参加学生主体で進める。
- ・グループ討議のマニュアルを作成し、段取りを決めて参加学生に主体的に進めてもらう。
- ・どうしても進まないグループ、リクエストがあるグループには必要に応じて委員がチャット等で助言や支援を行う。

⑤ 情報提供いただく有識者について

第1回委員会を踏まえて有識者からの情報提供と意見交換について、3名の候補者に協力要請を行った結果、承諾が得られ講演タイトルと内容を以下のように決定した。

情報提供1

未来は君たちの手にある「AIと社会イノベーション」

須藤 修 氏（中央大学国際情報学部教授、東京大学大学院情報学環特任教授）

地球的規模で大変動が起きようとしている。AIの利用は自由、尊厳、平等、安全性や持続可能性の向上など「人間中心の社会原則」の尊厳が極めて重要である。これからの社会に必要なのは、AIを正しく利用できる素養・知識・倫理を持つことである。未来は君たちの手にあるので、文理の境界を超え、新しい社会の創造に向けたスキルの習得や社会的実践を通じて「AIに負けない叡智」を培ってほしい。

情報提供2

デジタル・トランスフォーメーションによる価値創造

小西 一有 氏（合同会社タッチコア代表、九州工業大学客員教授）

グローバルなデジタル変革の中で成長し発展していくには、新たな価値を生み出す様々なイノベーションが求められる。今まで日本が得意としてきた「問題解決のイノベーション」だけでなく、「モノからコト」へのような人々の生活の豊かさや幸せ感をもたらす「意味のイノベーション」が避けられなくなっている。新しい価値を創り出し、成功していくには、経験するという価値に気づき、永く愛される商品やサービスの創造にチャレンジしてほしい。

情報提供3

超スマート社会で求められる学び

大原 茂之 氏（東海大学名誉教授、株式会社オブテック会長）

世界の中での日本の競争力ランキングは30年前の1位から現在の34位まで下がっている。その要因の一つとして、デジタル社会の中で、「自分でアイデアを生み出し」、「社会の変化を受け止め」、「解決に意欲を持つ」人材が育成されていないことが指摘されている。知識の量や与えられた課題をこなす能力ではAIに勝てない。サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を組み合わせる自分たちの解を模索する思考力・創造力・実践力を身に付け、社会を変えていくことが求められる。

⑥ 開催日時

令和3年2月1日（月）、2月5日（金）、6日（土）、8日（月）を候補に有識者のご都合を確認して確定することにした。

※その後、有識者のご都合を確認した結果「令和3年2月5日（金）」に決定し、最終的な開催要項（案）を11月6日にメールで委員・アドバイザーに確認いただき令和2年度の「学生による社会スタディ」開催要項（案）を取りまとめた。

2. 令和2年度「産学連携人材ニーズ交流会」開催計画について

（1）開催の考え方について

以下の視点で検討を進める、次回の委員会で開催要項を確定することにした。

① 「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」を受けて、異なる分野の学生や社会人を交えて多面的に知識を組み合わせ、談論風発を繰り返す中で知恵を創り出す学修者本位の学びの仕組みを加速していく必要があり、対面による物理的空間の学びに加え、時間・場所を越えたサイバ

一上の仮想空間とマッチングし、多様な「知」との新結合を目指す新しい学びのスタイルについて考える必要がある。

② 今、正にコロナ禍の中で遠隔授業の有効性と可能性を体験しているが、これを機に最良の仮想空間による学修環境を整備して、学生が物事の本質を見極める意識を持って主体的に行動し、協働で創造的知性を引き出す教育の ICT 変革、大学教育の DX 化が喫緊の課題となっている。

③ 今回は「教育のデジタル変革」をテーマに、分野を越えた専門知の組合せ、文理横断的なカリキュラム、学修の幅を広げる工夫について、産学が連携した新しい学びの仕組みを考えるため、「国際競争力の低下」、「コロナ禍における教育」、「大学教育の DX 化」、「AI を使いこなす力」などをキーワードに産学が連携した新しい学びの仕組みを考えることにする。

(2) 開催方法について

新型コロナの感染拡大の収束が予想できないことから、オンライン (ZOOM) で情報提供を行い、その後でオンライン (ZOOM) で全体討議を行うことにした。

(3) プログラムについて>

プログラム (案)

以下の候補者、内容でそれぞれ 35 分の情報提供をお願いし、切り替えに 5 分程度休憩を入れる。

① 文部科学省が今後進めようとしている教育のデジタル変革について

服部 正 氏 (文部科学省高等教育局専門教育課企画官)

② 企業サイドからの産学連携による教育イノベーション構想について

野村 典文 氏 (伊藤忠テクノソリューションズ[®](株) 技監 (兼) エグゼクティブ・プロフェッサー)

③ 大学と社会が連携したデータサイエンス・AI 教育の取組みについて

③-1 滋賀大学の取組み事例

須江 雅彦 氏 (滋賀大学理事/副学長/C I O)

③-2 早稲田大学の取組み事例

後藤 正幸 氏 (早稲田大学創造理工学部経営システム工学科教授)

④ 仮想空間と現実区間を活用した産学連携プロジェクト授業の試みについて

青木 義男 氏 (日本大学理工学部学部長・教授)

※ 青木委員から資料⑤で日本大学の取組みについて説明があり、青木委員に事例紹介をお願いすることにした。

⑤ 本協会の「情報専門教育分科会」からの報告

(4) 全体討議

本協会の「情報専門教育分科会」からの報告も含めて教育のデジタル変革について認識を共有した上で、「AI を使いこなす人材育成」について、大学と産業界・地域社会を組み入れた産学連携の方向性と課題や教育のオープンイノベーションについて意見交換し、理解の共有を図ることとする。

(5) 開催時期

2021 年 3 月 4 日 (木)、5 日 (金)、8 日 (月) を候補に有識者のご都合に合わせて検討を進め、第 3 回委員会で確定する。

3. 次回の日程について

次回の委員会は令和 2 年 11 月 20 日 (金) 16:00~18:00 とした。